

# 京交山岳部報

No 418

[1657回例会]

'87 8月号

## 夏山キャンプ大会

日 時 8月8日(土)~8月9日(日) 集合 局前 13:00  
場 所 京都由良川源流でキャンプファイヤー  
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 311-0998、788)  
本局 山元誠一(TEL 706)、鷺見敏一(TEL 852)  
備 考 申込〆切日 8月6日 担当者まで。 費用 3,000円  
(子供 1,500円)

(コース) Aコース 由良川の沢登り、  
Bコース 北山三国岳 その他。

[第1658回例会]

## 越後 巻機山

日 時 8月27日(木)~31日(日) 集合 壬生 PM6:00  
コ ー ス 27日 京都-諏訪IC-麦草峠-佐久-軽井沢-長野原-沼田-六日  
町-清水  
28日 ヌクビ沢...巻機山(往路下山)-清水-法師温泉(泊)  
29日 法師温泉...平標山(往路下山)(泊)  
30日 帰洛  
担 当 者 本局 大槻雅弘(722) 梅津 吉田 武(TEL 311-0998、  
費 用 25,000円 788)  
備 考 沢を登り、割引岳 1等三角点を登ります。 定員 6名。

## 今月の集会

インドア「星座」 三橋 勉

8月6日(木) PM6:30 厚生会館 4F大教室

## 9月の集会

インドア「ザイル結び」

鷺見 敏一

9月10日(木)

PM6:30

厚生会館 4F大教室

## 企画運営委員会

8月19日(水)

PM6:00

厚生会館 4F大教室



# 使い捨て感覚

岡田 茂久

昨今、我々の暮らしの中や山行きの装備の中においても、使い捨ての商品がニューウェーブとして相当入り込んできている。一昔前まで使い捨ての商品とすれば、せいぜい百円ライターか紙コップくらいであったが、こんな物がと思うものが使い捨ての商品として売り出されているのに驚く。

まわりをちょっと見渡すだけでも、ボールペン、刃の入れ替え出来ないカッターナイフやホットキス、中学生になって初めて買って貰い、なんか偉くなったような気がした万年筆も、一万年使えるはずがいまやインクは補充は出来ず書け無くなったらお終い。紙おしめから、果てはカメラやラジオ・時計までも使い捨ての時代である。カメラはメーカーに言わせると「レンズ付きフィルム」であり、時計やラジオなど電池を交換するとなれば本体に比べて3倍もお金を払う羽目になる。なんとも割り切れない気がするが、使い捨てにするほうがズーと経済的なのである。そこにはもう資源の無駄使いという感覚は薄れている。

山行きで使用する物でも、ヒヤロンやホカロン等の冷暖房パック、ガスコンロの重いボンベは一回きりのボンベに、飲み物の容器は、紙パックやプラスチックと変わってきている。使った後なにかに利用できないかと思案するが、プラスチック容器を水筒替わりにする程度で、紙パックは格好の和紙に再生できると聞きかじり、ミキサーで砕いてすいてみたがうまくいかなかった。

ところで、我々によく新しく優れた用具が発売されると聞くとつい買い込んでしまうことがよくある。軽くて性能の良い用具でより楽に安全な登山が出来るならばそれに越したことはなく、お金がある人なら物を楽しんで買い、使いこなすならば決して悪いこととはいえないだろう。

ところが使い捨て商品が氾濫するにつれ物を大事にする感覚が薄れ、だめなら買い替えればいいと、全ての用具について使い捨てに似た感覚で物を買うようになってきたのではないだろうか。たしかに我々、戦中・戦後の物の無い時代に育ったヤからは「物は大事に使いなさい」と親や学校の先生から叩き込まれたものである。おかげで悲しむべきか喜ぶべきか其の習性は今になっても消えること無く、新しい用具を買ったとしても古い物は壊れた物でも捨てること無く、なんか役にたつのでは無いかとしまいこんではいる。おかげで自分でもまだ使うことがあるんかいなと思いが

らも、大きなキスリングをはじめザックだけでも相当数に余り、大小のコップルからなかには片っぽうだけのシールなども惜しくて捨てる勇気がないままためこんでいる。おかげでダンボール箱がいくつもできあがり、山行きの準備などその片隅で小さくなってやっている始末である。

しかしそれらの用具の中には本当にそれらを使いこなし、性能を良く理解した上で新しい用具に替えた物ばかりであったろうか、買っただけで一度だけしか使用しないままダンボール箱の底になってしまっている物もあるはずである。

物を大事にするということは、物を捨てないということだけでないはずで、 unnecessary な物を買わないという事にも通じるものである。

新しい物が発売されたから、あの人が買ったからといってすぐに飛び付くのではなく、物に愛着を持って使用しそれを使いこなし、本当に必要な物だけをよくたしかめて購入するようにしたいものだ、自分自身ダンボールの山を見ながら反省している。

## 第1643回例会

# ボンジ・京丸・灰縄

伊藤潤治

せっかく速く、遠州まで行くのだから、一山でも稼ぎ得であると、小粒だが天竜図で、白山かハサカ山に登るべく前夜より出発。浜名湖SAで仮眠、九日七時、三方ヶ原PAでワサビ会のK・I・Sの三名さんと合流した。ところが、虫の知らせというのか、懸念はないのに殊勝にも前座の山を断念してもらい、慎ましく本命に向けて、浜松ICから県道65号に出たあと、R152号・R362号を経て、9時過ぎ灰縄林道の楽善橋についた。それより灰縄林道を詰め、灰縄山と京丸山に登頂して、駐車点で暮泊。翌日はボンジに登り日のある間に帰洛するつもりであったのである。だが楽善橋には冷たく鎖が車止めをしていたのである。地元は営林署に入山許可を得て下さいと答える。それで1975年の黒法師、1978年の竜馬ヶ岳では、申請したが、この灰縄沢は、この一帯を縄張りにしている会によれば、常時開放されているとのことで、入山許可不用と聞いていたのである。しかし気田での聞き込みでは、土・日に限り閉鎖するらしい由であったが来てみると、その最新情報どおりには参った。ショックであったが、私は灰縄やボンジの名称が好きで、少々無理でも灰縄沢とボンジ山には、足跡をしるしたく、車を楽善橋に置き灰縄林道に入った。一寸先は暗を、ちよっぴり体験したが、前夜突にして、あと直行できたことが、意外な幸せになってすがすがしかった。右岸道は入口に立入危険が出ていたが、左岸道は歩くには惜しい車行路面。あほらしゅうなって、灰縄とは、縄がよろよろ這うて見える蛇を比喻したものか。ボンジとは、梵字と関

わりがあるか、あるいは親しみをこめた平凡地の称か、などと連想して行く。二軒標を過ぎて滝の落下がある谷。二・五軒標とヒダの向うに、コガキ沢の緩やかな溪流が現れた。この左岸に道と小屋があったけれど、コースを右岸尾根に固執、ご苦労にもさらに奥を偵察の上、コガキ沢左岸の道をたどった。約20分で左へ寄り、植林斜面をジグザグで尾根寸前まで上ると、鹿が畏にやられて往生していた。かわいそうに死後まだ数日のよう、これでは浮ばれまい殺生図があった。上った尾根は710m、水窪・佐久間町の境界稜に囲まれて、ぜいたくな薫風浴の憩場であった。上るに従い1984年5月に訪れた常光寺山、井戸口山(山住山・日本山岳志)。竜頭山へと見晴らしは広がり、それぞれ懐かしむ。960mとその上部に、左右の道があったが、さらに上手で、今度は、畏にかかったままの白骨を見せられて、私たちは獣のために成仏を祈ってやらねばならなかった。

植樹の上限は大体1,140m地点。あとは灌木帯の主として、尾根筋を踏んで木立の疎らな草を生やさず美しい平のボンジ山、Ⅲ△1,292.7mに登頂した。東と南面は、そこまで人工が加わっており、私たちは、いいコースを選んだのである。よかった、よかったと満悦で往路を下山。すぐ翌日に備えて京丸に向う。不動谷橋を経て洞木沢橋、ここにもゲートがあって、危うく施錠のところを、営林署や春野町の人たちの好意により、事なきを得て京丸についた。

付近に「町指定文化財、京丸牡丹谷、指定年月日、昭和41年12月26日、所有者。気田営林署、牡丹谷は、その名の負うが如く「60年に一度咲くという、傘大の白い牡丹花」の不思議を美しく今に伝えている。遠く南北朝時代、南朝方の公家一族が乱を避けて、この地に住したといわれる。藤原家が谷一つ距て相面している。春野町教育委員会。」の案内板があった。藤原忠教家は不在であったが、庭先を拝借、幕営させていただいた。

東名浜松 7:08 - 気田 8:25 - 楽善橋 9:03...コガキ沢 10:20...940m 12:00...ボンジ山 13:00 ~ 13:40...楽善橋 15:55 - 洞木沢橋 16:40 - 京丸 17:25

この京丸の里には興味があり来たかったのだが、登路としては灰縄沢が有利であったから断念したのであった。それがシャットアウトを喰っての京丸入城となった。何が幸せになるか分らぬめでたき展開である。藤原家の不在は物足りなかったが、家屋敷もろもろのたたずまい総て、美しく環境に溶け込み庭の風景とともに忘れられない。向い山が1978年1月6日の竜馬ヶ岳、7日の岩岳山であったのも楽しかった。

10日の出発は、5時40分。藤原家横の「京丸山指標、春野町教育委員会」により畑を縫い、自然林のすがすがしき懐に入って、小鳥の冴えた声の響く尾根に取付く、すぐ汗ばんだが標う緑風がたまらなかつた。尾根が右にずれて、伐採端の直登で、ひょいと稜線だが、そこまで伐採が食い込んできていて、いただけない見晴しになっていた。その殺風景が終ると、いささか面喰う笹潜りコース。自然界の織なす様さまに感動して行く。1,310m峰では開花寸前のヤシオツツジ、その下部にキン冷やしのキレットがあって、あと倒木や笹を分けて登ると、四畳半ほど笹のない、京丸山Ⅲ△1,469.1mであった。

世界山岳百科事典も「この山には古くからまつわる伝説、京丸牡丹があって、速州七不思議の一

つに教えられている。60年に一度雨期を選んで咲くカラカサのような大輪の牡丹、しかも、雨が上がると同時に消えてしまい、確認も思うにまかせないといわれている」、私はこの京丸牡丹に久しくあこがれ続け、ようやく今、その山に登った。ヤシオには早く花との縁はなかったが、京丸山だけで思いは充分であった。

少憩後、灰繩山に向い。花はまだでもヤシオの美事な群落、展望もそこそこあって、なかなか庭園的で、座り込みたくなる衝動をおさえて行くと、またもや笹地に迎え入れられボンジの分岐点だった。踏跡を探す内、朽ちた指標を拾いコースの見当もつき、笹を分けて下ると尾根が出てきた。シャクナゲ沢の樹相は、眼にさわやかだった。灰繩林道から歩道が上ってきて、灰繩山に続いてくれた。前峰を越え尾根鞍部がキレットになっていただけで、歩道を得てからは、灰繩沢の涼風もときどき快適裡に、伸び伸びせる疎林の灰繩山Ⅲ△1,436.4mだった。のどやかな頂き、これで念願としてきた総てが達成したのである。それなのに、めでたさ酔ってられないのである。一つには、洞木沢橋16時封鎖の制約があったが。

京丸山に戻ると、数名の岳人が憩っていた、沼津かもしかと親しい人たちで、Iさんと話がはずむ。藤原家岐れ付近には、2・3パーティや単車まできており、藤原家からの林道でもファミリーの歩行があって、私の秘境感はずれた。気がかりであった洞木沢橋は時間内に渡れ、ほっとして家路につくことができた。

ちなみに「静岡県大百科事典」の抜粋に及ぶ。京丸牡丹、遠州七不思議の一つ。所在地は周智郡春野町京丸。昔、京丸の里に若い旅人が迷い込み、助けられた。そしていつしか長のおき一人娘と恋仲になった。しかし村のおきてで他村の者との結婚は禁じられていたため二人は村を出たが、ついに安住の地なく、再び村に帰り天竜川に身を投げた。その命日がくると二人の魂は大きな牡丹の花となり咲いて流れるのだという。

1843年(天保14年)刊、柳沢里恭(椋園)の「雲萍雑誌」巻の三、浜松の旅宿の聞き書きが記されている。「溪間を速くへだててその大さ、ふたかかえもあらんとおもふばかりの樹に、色紅にして黄をおびたる花、今をさかりと咲きたり。…この花の大さ、ここより見ればさほどにあらず、この川の末尻というところに、この花ちりて流れ行けるを拾いしもあり、花びらのあたり、一尺余もあるべしと語り…」とある。

そのほか京丸牡丹について書かれているものに、西村白鳥著「煙霞綺談」巻の四、1798年(寛政10年)刊、浜松齡松寺住職華誘居士の見聞記、絵入り四冊本「遠山奇談」巻一、「ぼたん京丸の里の事」、兵藤長庚著「遠江古跡図絵」の「京丸の牡丹花」、中道朔爾の「京丸牡丹の話その他」(「上のいろ」四巻一号)

1972年(昭和47年)刊、鳥居純子著「花かざら一幻の花を求めて」の「伝説、京丸ボタンのふるさと」がある。(金田静雄)

藤原家 5:40 稜線 6:30・1, 310m 峰 7:30…京丸山 8:20～8:45…ボンジ分岐 9:15…歩道 9:58…  
灰繩山 10:55～11:30…京丸山 13:30…藤原家 14:40…洞木沢橋 15:55—東名浜松 18:00—名神  
京都東 21:13

1987.6.20

## 東千回沢山・オジロギ・乞喰松

伊藤潤治

この計画は横山図の点名日坂△821mを第一山に掲げていたが、そのごメンバーの既登で、山名瀬倉山やコースと所要時間などが分ったのでこれを外すと共に髷村の不安はあったが、鬼生谷から乞喰松を登ることにした。とはいっても図上作戦のみで、藤橋村へ移管された鬼生谷の現状を尋ねもせず、いつものラッキーを信じてであった。

京都をNさんと出発、大垣でKさんが加わり、R258号北行。R21号バイパス左折、すぐ五衛門看板で県道212号へ右折北行、やがて左に振って揖斐川堤防を走り、R414・417号標があって粕川・揖斐川を渡るとR303号。津汲で物資調達の上、横山ダムを過ぎれば、懐しや、1985年5月釈迦嶺(シャカダワ・山名考第372号)以来の路面、相変らず山ヒダばかりで目まぐるしかった。けれど側壁はよくなって心強かった。

鶴見の辺では、花房ランドに協合する幟がはためき新しい茅ぶきが並び何か活気を感じさせていた。ダム建設域にかかると、準備の有様が不気味でガードレールが欲しかった。流れと道が並ぶようになって、かつての徳山の村里に入ると、残された家屋敷が目にもわびしかった。左岸に移れば、先月まで徳山村役場の所在した本郷。ここも既に無人境の筈が、思いがけなく人や車の活発な姿があり、ほっとうれしかった。妙に懐かしみを感じ、ふと鬼生谷を尋ねようかと思つたが、ここまできていまさらと気後れして、声を掛けられずに山手橋を渡ってしまった。人影のない山手をあとに鬼生谷に入った。この林道は1953年開通そのご延長を重ね相当奥部に達しているが、岩記号下での崩壊やどこまで入林可能なか心細かった。しかしその杞憂は無駄だった。つつがなく約8.5kmを走行、駐車と天幕の適地標高720mに横付けである。これだけの林道であるからには、相当な造林であろうし、作業道もある、とにらんだ。きょうの山は東千回沢山だが、翌日に備える天幕泊りをオジロギ付近に予定。だから久しぶりに寝食携行の山歩きである。

林道の終点で左岸に渡り本流を背にするが、美事なウドやフキの群がる、よく踏まれた道は左折して、ウツギが色をそえている左岸を伝うことわずかにして、水量豊かな枝谷の左岸に出た。水を汲み右岸に越えると、雪害木の引綱くぐりと急登の道であった。緩やかなトラバースで道は左右に岐れていた。左は本流方向であり右をとる。また急登になり引綱がなくなっていた。右手に水音が聞こえやがて崩壊面が谷間に現れたが、ここで尾根は壁状に立ち道はあやしい踏跡になった。少しよじ登ると左斜面は、伐採稚樹地になっていた。登るほど広大な稚樹斜面が現れ、この伐採は先刻別れてきた道の作業らしく、あちらが楽のようであったが直登で頭張り尾根頭に乗った。1,020mであって足下に駐車が見え、標高はともかく距離の小さいコースにあきれる。どうしたことか飯場跡や平地もあまりなく設営にはちょっと思案を要する稜線付近であった。そのあと東千回沢山へ

空身で、右自然林、左稚樹群を下り向い斜面に上りかえして、伐採上限より緑濃い自然林に入り尾根筋をたどって行くと、黄色プラスチック、 $\Delta 6$  杭があり、どこからか鈍目が入ってきた。この調子で進めたらとほくそ笑んだが、なぜか $\Delta 7$  杭からは鈍目の援助が切れ、歩幅はのびなかった。それでもそこそこのタイムで、 $\Delta 8$  杭を打った東千回沢山・ $1,194\text{ m}$ に登達できた。空は曇天で灌木はあったが、晴れていれば金草・釈迦嶺・冠・若丸・イソクラ・権現さま・上谷・五蛇池・黒津・ソムギの眺望があるのではないだろうか。この時は千回沢山 $\Delta 1,246\text{ m}$ のまぶしい頂上であった。

5月29日 京都7:00—大垣9:00—津汲9:50…本郷10:45…鬼生谷奥10:20—11:20

設営点14:35—15:05…東千回沢山16:40—16:50…設営点17:45

よほど強く吹き抜けていたのだらう、その風音は耳にうるさく朝まで続いた。4時過ぎ小鳥の声で起きたが、濃霧充滿のためと乞喰松の往復を約5時間と読んでいたから、6時過ぎまでまたシラフで横になっていた。ガスは一向晴れなかったが、7時30分行動開始。すぐそばでカッコーが鳴いた。所在は不明だが、こんな近くで朗声を聞いたことがない、瑞兆だらうか。天幕も笹も露を宿していたが、ブナ林はさらっとしてさわやかな藪だった。露を浴びた植樹の稜線に出ると、ガスに切れ目ができて東千回沢山が見えた。大白木山は「岐大時報」による山名であったが、この翌朝、冠山峠で偶然元塚の住人橋本義治さんと会い、呼称「オジロギ」の確認ができた。植樹境から疎林をわずかに踏みこむと、ブナの木立に囲まれたひそやかな中に、オジロギ $\Delta 1,082\text{ m}$ はあった。この登頂はきのりの観察では、デボ地点から15分もあれば充分の筈が、軽装でもおあいにくさまであった。いささか気合の掛ったその下り尾根は、左自然林の植樹界ながら手入れ不能なのか茂るにまかせたままが西赤谷を分けるコブまで続いていた。自然純林になってほっとしたが起伏も展望もない雑林の長い尾根は、退屈になってくる。そんな折、幹に「昭和39年12月26日、熊オッテ、半平、積雪二尺位」を彫りこんだブナが立っているのに出会った。

この昭和39年の私は春に徳山村を初訪し、秋に冠山を初登している、その折、乞喰松を知ったのであった。またこの美濃で熊を見たのもこの山系の千回沢山南稜で、1970年4月26日不動・千回沢を目指していた私たちは、前方を子連れ熊が行くのに出会い、ぎょっとしてきている。

この付近が $968\text{ m}$ であったか、緩い下りになる。そこそこの藪のところどころに小湿地・小池塘を秘め、いささか景観的に進み、やがて窪地によるか尾根が左右に割れていた。ここで西ノ浦谷側にコースを移し、だらだら下り切る辺りから樹相は美しくなった。

ブナのすがすがしい群立を夢みてきたが、西ノ浦谷側尾根にはそれ程のものをそなえていなかった。急な直登をして藪を突破した短笹原に垂体槽が立ち $\Delta 963.9\text{ m}$ 、乞喰松の頂上があった。東面がよく見晴らせて、紺碧の空に金草と冠とが立っていた。これはたまらない景観、大感動の眺望だった。

乞喰松の山名は1964年10月、塚の山本盛定氏より収録したが、こんな尾根端に登ることになるとは思ってもいなかった。点ノ記購入時に外れている程である。それだけに乞喰松にとって、

金草・冠の眺望は掘り出し物であり、うれしき招宴であった。まあ一美濃党の志には一度は体験してほしい、きれいな頂上を持つ乞喰松である。登頂すれば次は下山である。ところが乞喰松の今度のコースはおかしなことに、その下山のほとんどが上り、加えて西日に向い飲料水欠乏など、やや強行であった。けれど満ち足りておれば現金なものである。さっそうとデポに戻り乾燥なった天幕をたたみ、荷物をまとめて枝谷の流れに下山。

汗を拭い気分よく駐車点に帰る、既にNさんの調理がはじまっており、歓談のうちに酒食がならび、満願達成のめでたき祝宴と相成った。

5月30日、デポ 7:30…オジロギ 8:05～8:25…西赤谷頭 9:25～9:35…ブナの影字  
10:28…968m 付近 10:40～10:50…乞喰松 12:25～13:05…ブナの影字 14:45～15:05  
…デポ 17:00～17:15…枝谷 18:05～18:15…駐車点 18:30

明くれば5月31日、畏友山村敏郎氏の古稀祝福のため、冠山絶頂へよじ登るその朝である。この第1649回例会への参加は、冠山峠10時30分というのに、鬼生谷を7時15分出発、冠山峠8時20分着の一番乗り。ブナはそよぎ慶祝日にふさわしき晴明でそこに気高くとり登りました岩峰冠山Ⅲ△1257mの秀麗があった。この美観をこの日はきのうと違いのどやかにして、ご本尊たちのご到着を待てばよかった。

1987.6.28

### [訂正]

当部報、第416号P4で、第1618回例会の報告中に、「つまり女へんに高でなくて、石へんの高であると」述べたこの「高」は間違いであり、「少」に訂正いたします。

### 第1651回例会

## 今淵ヶ岳

大槻雅弘

一今はけものか、物好きな登山者がやぶを漕いで登るだけになった一と、「ぎふ百山」に書かれている。その、物好きな者が高賀三山（高賀山・瓢ヶ岳・今淵ヶ岳）のひとつ、今淵ヶ岳に登り、頂上で意外な人の歓待を受けたのである。

「熊でも出て来たのかと、ビックリしました。まさか、人がこんな方向から登って来るとは思いませんでした」と、言う人達が既に三角点で一献かたむけておられる処へ、我々がブッシュをかき分け飛び出したからである。

我々もまた、「まさか、三角点で先客がおられるとは予想もしませんでした」と、言うことで互いに名を名乗りあい、三角点を囲み、乾杯と相成ったのである。岐阜の森本氏はか2名で、大学の教授をされている方である。



実は、先月5月31日 奥美濃の上谷山にて、日本山岳会の例会として同行していたのと、三橋さんが岐阜支部で既に顔見知りであったが、名前が互に解らなかったのも、改めて名乗ったのである。

互に、足元を見ると地下足袋。さすが美濃の山ならではのいでたち。地図を掲げ、あれやこれやと話しが弾む。いま、登って来た径について語る。我々は、片知溪谷をつめて、三角点の北の方へ廻り込んで谷を登って来たが、先生方は、西の板山部落から送電線の巡視路の切り開きを登ってこられたとのことである。

今淵ヶ岳1,048.4m三等三角点の頂上は、南の方が開けているだけで展望はあまり良くない。でも標石の廻りは、車座になって小宴会するにはちょうどいいくらいに括けている。

平安時代から山岳信仰によって、開山された山のひとつであるらしいが、今は、昔の面影は知るべくもない、ヤブ山である。ただ、静かな山、それが美濃、ヤブ山の良さなのか。

いつまでもお付き合いをしていたかったが、我々は、あとひとつ山へ登る予定をしていたので、記念写真を撮って早々に三角点を後にした。

下りは、往略の谷を降り、林道の出合で昼食とした。今淵ヶ岳と、いま登った谷を見ながら、予定したコースを忠実に登り、三角点に突き上げた満足感に浸りながら次の山、矢坪ヶ岳へと車を走らせた。

当初は、今淵ヶ岳と、この矢坪ヶ岳を縦走するつもりだったが、どうも径もないし、ヤブもきつそうだし、ということで片知から矢坪へ車を廻し登ることにした。

頂上に、反射板のあるということは、見晴しもいいだろうと思っていたが、予想どおり三角点からの展望は大垣市内が全て一望出来た。朝方だったらもっとはっきりするだろうが、それでも恵那山まで望むことが出来た。三角点の横には、山ユリが可憐な花を咲かせ、急登の連続であった登りの苦しさを一時忘れさせてくれた。

1985.7.7 雨 高賀山

1986.7.27 晴 瓢ヶ岳

と日記に書いてあるのをめぐりながら、

1987.6.21 晴 今淵ヶ岳

と書く。3年がかりで目的の高賀三山が登れた。

この春から、特に奥美濃の山によく登り、どうやら「ぎふ百山」の折り返し点に来たようである。でも、まだまだ奥美濃の山は深い。

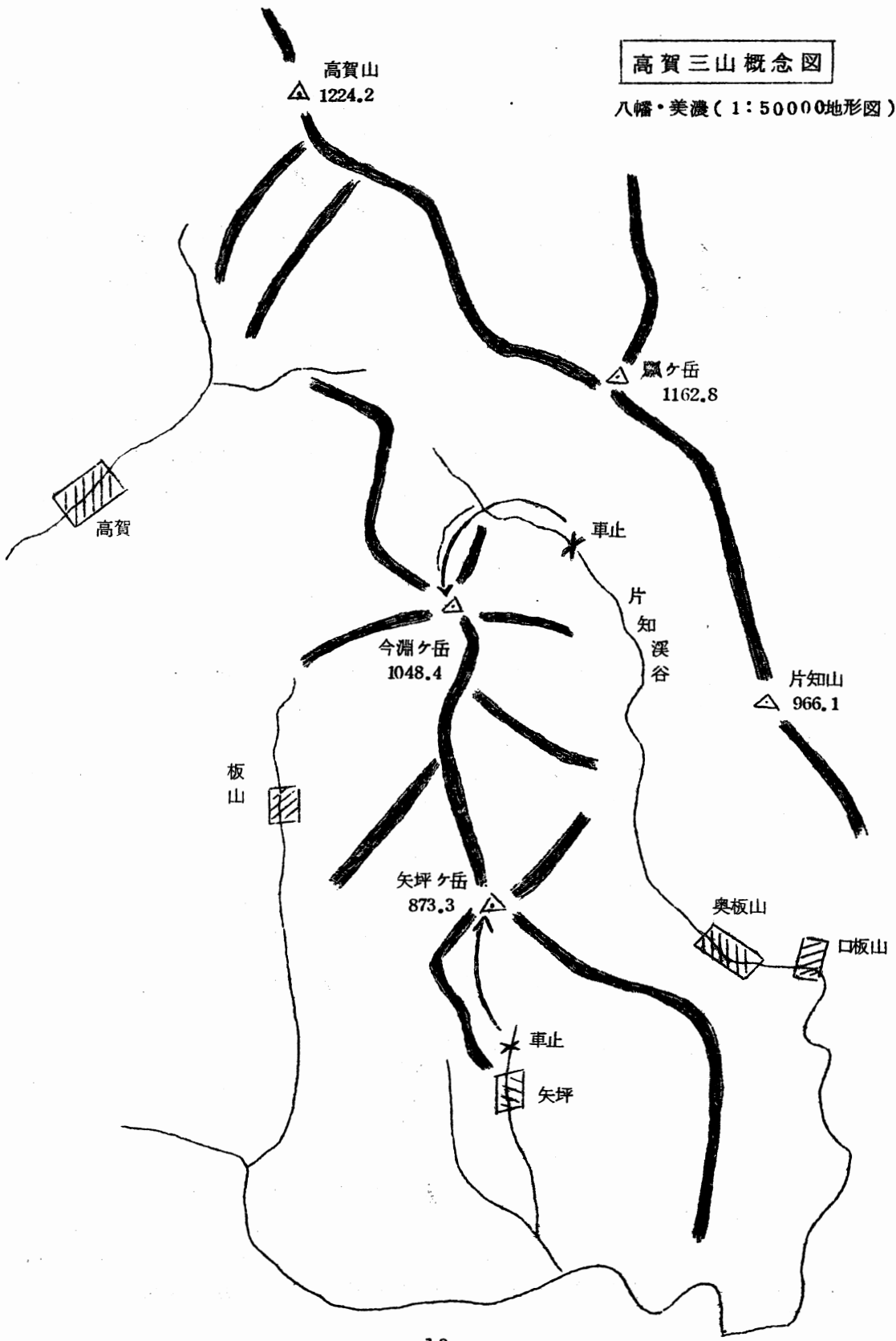
【参加者】 三橋 勉、古市昌造、大槻雅弘

【コースタイム】 1987.6.21

5:04 東I.C - 6:08 岐阜羽島I.C - 6:35 長良橋 - 7:40 ~ 8:00 登山口... 8:16 林道から谷へ... 9:53 ~ 10:40 今淵ヶ岳 3 等三角点... 11:40 ~ 12:15 河原 (昼食)... 12:35 ~ 12:40 車止 - 13:10 ~ 13:15 矢坪神社... 14:35 ~ 15:00 矢坪ヶ岳 3 等三角点... 16:05 ~ 16:15 神社 (車止) - 16:30 ~ 16:45 本流 (河原) - 17:18 長良橋 - 17:50 羽島I.C - 18:42 ~ 18:50 黒丸P.A - 19:16 京都東I.C

高賀三山概念図

八幡・美濃(1:50000地形図)



# 播州一等三角点 千丈寺山

(赤兎山を変更)

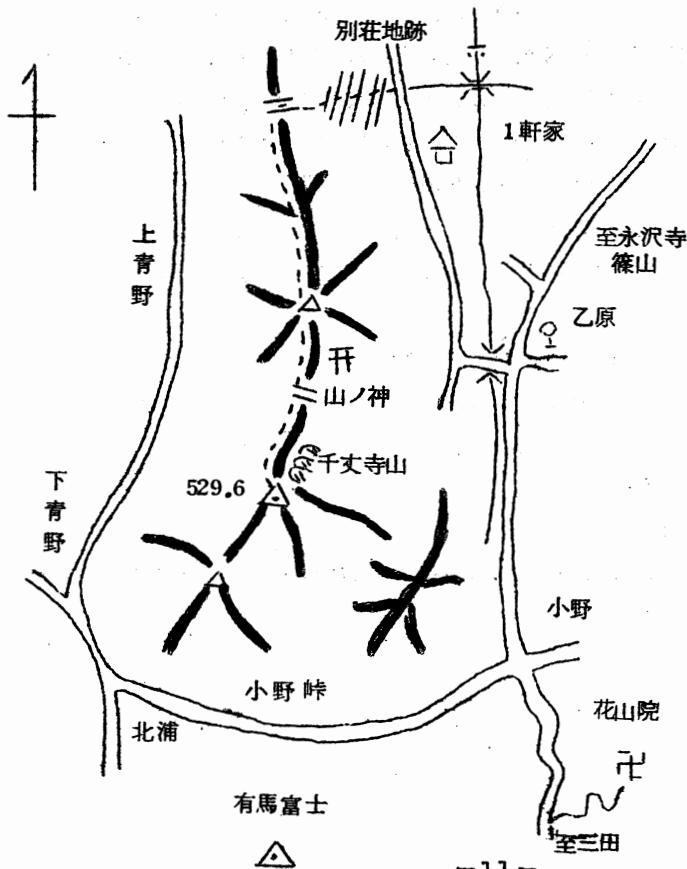
岡田茂久

もともと、赤兎山から白山の雄大な展望と登山後の温泉を楽しもうという計画であったが、担当者が故障のため急に肩替わりすることになったものである。

ところが思ったより参加希望がすくないうえ、前夜祭の直前の参加取り消しがあったりで機先を削がれ、おまけに集合はしたもののザンザカ降りの雨ときては気力もうすれてしまい、残業帰りの連中に誘われるまま四條大宮の赤ちょうちんに沈殿とあいなってしまった。明朝、天気ならどこか登ろうと約束し店をでて解散するときは、皮肉にも雨は上がり雲間に星がまたたいていた。

朝、変わったところで竹田の教習所前に集まり一路名神を西へ向かう。目的地はかねて気になる山の一つ播磨の一等三角点「千丈寺山、589.6m」に決定した。

中国縦貫の西ノ宮北口から三田市を経由して乙原へ向かう。左手には古歌に「有馬富士 麓の霧を海とみて 波かと聞けば小野の松風」とも詠まれた有名な有馬富士の秀麗な姿が望める。観音信



仰西国三十三ヶ所の中興の祖、花山法皇の霊場花山院を過ぎるとまもなく乙原である。乙原のバス停横のコンクリート橋を渡ると、右手の谷へ車幅いっぱいにはあるが舗装された道が伸びている。草刈りをしていた村人に様子を聞くと、乙原からの道は繁っていてとても通れないから、小野まで引き返して登ることを勧められた。ままよとそのまま進み、奥にある一軒屋の先の十字路の左手の山道が稜線のコルまで伸びて

いるようなので、車を草叢に突っ込み駐車それをたどることにした。あたりはかつて別荘地として売られ出されたのだろうか、名前を記した朽ちた立札が倒れている。しかし一帯はブッシュが繁茂しとても別荘の分譲地の雰囲気ではない。それでも一ヶ所、別荘の夢は捨て難かったのか石や庭木に見立てた灌木を植えた小さな切り開きがあった。悪徳業者の甘言にのせられ、こんな土地を買わされた人の恨みが聞こえてきそうなわびしい光景である。

切り倒された木が処理もされず放置された歩き難い道は、やがて植林の中の道となり登りというほどもなく、ぽっかりと窓のような峠にとびだした。どういわけか沢蟹が一匹峠で遊んでいた。峠からは、左方の伏採地の中の踏跡を登るがかなりの急登である。青野側は展望がよく田んぼの早苗の緑が美しい。一つ目の尾根のコブから灌木帯に入り、一つ目のピークまで急登が続くがたいしたことは無い。

ピークからは踏跡がやたらとあるゆるい下りが峠まで続く。薄暗い峠の端に小さな広場があり、山の神を祀る石の祠がある。無残にも松喰い虫にやられたのか、ひとかかえもある大きな松の木が祠に倒れ掛かっていた。

ゆるい下りがだんだん登りになる頃、目指す千丈寺山のピークが木の間に見え隠れする。おおぜいの人声にふり仰ぐと、30人程の年配の登山者の一団が下ってきた。登山の対象にはあまりされない山と思っていたのに意外であった。向こうもそう感じたのかびっくりの程。

道はだんだん瘦せ尾根となり、大きな岩を乗り越えると一等三角点千丈寺山であった。さきほどの大岩が最高点で、三角点の位置はやや低く周りは灌木が茂り展望はない。測屋檜は跡方も無かった。大岩の下部は岩壁となり展望も良く一息入れようとしたが、雨粒がポチポチと当りだしたのに追われるように早々に下山にかかる。山の神の広場で休憩していた先程の一団を追い抜き、幾本もある判り難いルートも難なく快調に峠まで掛け下った。

通り雨だったのか駐車地まで戻ると青空が広がり、もう夏を思わず陽気である。林間で例によりなんでもありの豪華な昼食となる。『特製冷めん』がなんとも美味であった。洋介君は河原の水遊びに機嫌である。

帰りには花山院に御参りし集印。播州の山々にそよ吹き渡る清涼な『小野の松風』は寿命が延びる感。せつかく来たのだからと永沢寺の花菖蒲を觀賞し籠坊温泉も経由した結構な山行でした。

〔参加者〕 井戸澄夫（井戸洋介） 方山宗子 渡辺朋子 岡田茂久

〔地 図〕 藍本 1/25000

〔日 時〕 62.6.21

〔時 間〕 京都8:00 - 乙原 10:05 ..峠 10:25 ..祠の峠 11:00 ..千丈寺山 11:15 ~ 11:35  
..峠 12:10 ..乙原 12:25

## 大峰山脈

# 吉野から山上ヶ岳・大日・稲村ヶ岳

森 本 清 一

62.5.31

吉野から山上ヶ岳への道は古来信仰登山には欠かせない本道だった。しかし洞川へ路線バスが通じてからは次第にすたれ今では修験者もめったに通らない、これも時代の流れだろうか。私も洞川からは何回も大峰山寺、山上ヶ岳へは登っているが一度は吉野から山上ヶ岳へ登って見たかった。幸い気の合った仲間と話がまとまり、一泊二日の日程で実行することになった。5月31日の早朝京都駅から近鉄に乗る吉野駅前に着いたのは、8時20分だった。早速登山準備を整へ駅前の七曲り坂を歩いて本道に出て吉野の町に入る。昔はまず吉野川の柳の渡しで身体を清めて入峰するのが修験者のならわしだったそうだが、今はそんな姿は見られない。銅(カネ)の鳥居をくぐり金峰山寺(蔵王堂)東南院、桜本坊、竹林院と山伏ゆかりの諸寺院をすぎ、猿曳坂を登ると水分神社、獅子尾坂を登って金峰神社につく昔はここから女人禁制だったが今はさらに南方、大天井ヶ岳を越えた五番関跡に変わっている。神社から間もなく鳥住との分岐付近はかつて愛染堂などがあった所だが、今は台地が残っているだけ、慶応元年銘の…女人結界…の石が立っていた。樹林を抜けると明かるとい尾根になった。新茶屋跡にザックを置いて四寸岩山△1235のピークを踏んで往復する四寸岩山からは尾根をまき適当な所を見つけて昼食をする。午後からは百丁茶屋跡へと歩き出す尾根からは目ざす大天井ヶ岳の雄姿1438メートルが私らを迎えるように、そそり立つ。狼谷の廻り込んだ所にザックを置いて大天井ヶ岳を往復するピークを踏んで五番関跡に出る。高原川と洞川を結ぶ最低鞍部で女人結界禁制を示す木の門標が立っていた。急坂を登り鍋担ぎ行者の小堂をすぎ今宿跡に着く吉野川に注ぐ上多古川と下多古川を振り分ける支稜の頂点である。この付近から樹相は植林から自然林となり緑したたる広葉林に混ってモミ・トガなど針葉樹が目立つ。やがて吉野道の最初の岩場当たる、大鞍掛、小鞍掛など5~60mのちょっとした岩壁である、かなりのアルバイト、朝から歩き続けで皆そろそろバテ気味になって来る。登り終えると平坦な道がしばらく続く尾根通しに目指す山上ヶ岳の雄姿も見えて来た。びっくり坂を越えるとササの葉道をすぎやと今日の目的地洞辻に着いた。時計を見る予定より少々おくれたのに到着、今日はこの地ダラスケ小屋で泊る。気のいい番人のおじさんに今夜一晩の泊りを頼むほかに泊り客はおらず私達三人の貸切になった。疲れを休め夕食の準備、ハクサイ・豚の水炊き山では豪華メニュー、余る程持って来た酒類、ウイスキー・ビール・日本酒、飲んで喰べて、ワイワイ、ガヤガヤ、昼間の疲れがいっぺんに吹き飛んで行く。一泊の楽しみ夜の更けていくのも忘れてドンチャン騒ぎ、食事を終えて小屋の外へ出る。たそがれて暮れゆく山並みが墨絵のように浮かぶ、しばし感傷にひたりながら夜のとばりを過ごす後は眠って明日の行動にそなえるのみ… 皆さん、オヤスミ…。

二日目… 昨夜は洞ノ辻の小屋でグッスリ眠る早朝四時前あたりの静けさを破ってチリン・チリンと軽快な鈴の音を響かせながら下から登ってくる一人の行者さんの足音で目がさめる。おそらく洞川の宿を朝立ちして登って来たのだろう。私らも起きて今日の登山準備を急ぐ。この頃の季節は夜の明けるのが早い、あたりはもうすっかり明るく東の空は朝やけで薄茶に染まっている、今日も一日晴天間違いなし。小屋の裏の谷水で顔を洗う。もうなんともいえない良い気持だ、谷の水は冷たい、いっぺんに眠気がどこか吹き飛んだ。コップ一杯の水を飲む都会の臭い水と違って本当にウマイ、この味が忘れられずに又山に来る。四時すぎに小屋を出発する。30分余りでクサリの岩場に到着、足元を確実に一步一步登る。登り切った展望台、何度来てもこの展望台は良い。360度の眺望は気分爽快だ、折からの日の出が素晴らしい。山へ来て日の出が見られるのは本当に幸運だ。展望台ではしばらく何もかも忘れて自然の素晴らしさと美しさを満喫して出発する。幾つかの宿坊の間を抜けて大峰山寺に着く。本堂の温度計を見たら気温10度だった。快ろよい山上の冷気によれながら本堂に参る。大峰山寺は老朽がはげしく三年がかりの歳月をかけて今年再建修理が完了したと寺の住職からうかがった。古い建物のまま良くも立派に再建修復したものだと感じる。山上ヶ岳△1719.2メートルのピークを通りすぎ、お花島の一角で朝食をするアツアツのうどんの味は又格別だった。遠く弥山・八経ヶ岳の山なみや昨日縦走して来た大天井ヶ岳・四寸岩山を眺めながら心行くまで眺望を楽しむ。小稲村の岩峰を下りレンゲ峠、ここに大峰南の女人結界の門が有る尾根道を山上辻にたどる。山上辻の稲村ヶ岳△1725メートルのピークを踏。大日山は独立した岩峰で面白い山だ。大日山・稲村ヶ岳の谷間から中復にかけてジャクナゲが今を盛りと咲き競い、大変きれいだった。山上辻から白倉山を抜け狼尾根から法力峠へ五代松鐘乳洞を経て洞川の町に着く。長かったが、又楽しかった一泊二日の吉野、大峰の縦走の旅もこれでピリオド、洞川の宿でビールを飲んで乾杯。PM 3:45分のバスで下市口、近鉄と乗りついで京都に帰った。

〔同行者〕 久保忠造、 工藤俊作、 森本清一

〔コースタイム〕

- 5/31 吉野駅 8:30…金峰神社 10:30…新茶屋跡、四寸岩山 12:30…百丁茶屋跡、大天井ヶ岳 15:10…五番関跡 16:10…今宿跡 17:10…洞辻 17:50
- 6/1 洞辻 4:30…大峰山寺 6:00…山上ヶ岳、お花島 6:30～8:30…レンゲ峠 9:30…山上辻 10:00…大日山稲村ヶ岳 11:00…山上辻 12:00…法力峠 14:00…洞川 14:45 洞川 15:45 バス下市口 17:30→京都 18:50

## ▲部費受領

関本 俊雄、山元 誠一、大切 照男、方山 宗子、 大槻 雅弘、 佐々木敏雄、佐伯 康介、  
三橋 勉、沢井 佳三、川原 傳治、原田加津子、 上島 弘子、 藪田 民栄、鷺見 敏一、  
立花 雅彦、加地 卓男、楠 とし子、若山 裕孝、 広瀬光太郎、 鎌田 利雄、上村 次男、  
竹田 勉、大木 秀実、岡本 孝、大杉 雅晴、 鷺見 敏一、 猪飼 康夫、柳田 晃、  
井上 一天、松井 郁夫、古市 昌造、井戸 澄夫、 角田 敏昭、 山口 雅直(以上本局)

(高速) 岡田 茂久、出海 洋三、石田幸次、河合 秀晃、(市役所) 荒田又之助  
(梅津) 蛭子野俊雄、吉田 武、徳田 真三、入江健治郎  
(九条) 和田 良一、村野 忠雄、清水 明、大槻 貞従、上島 和彦、森塚 良郎

# 庚申山～皇海山 と袈裟丸山

坂井久光

6月4日のドリーム号で出発。久しぶりの東京駅で下車。上野へ山手線で行き朝食後高崎線で高崎へ。途中浜松の一谷が私を見付けて挨拶した。桐生で彼の連2人と4人で昼食休憩後足尾線に乗換へ通洞へ。国民宿舎かじか荘の送迎バスで、かじか荘へ。一帯は昭和40年頃迄日本の三山銅山の一足尾銅山として栄え、庚申川沿いに鉱夫の宿舍や人家が兩岸の斜面に建並び、人口一万人を数へたと云う。小滝鉱洞入口もあり一帯は今も銀山平と云う。一帯は那須火山脈の火山であり足尾温泉が湧いている。かじか荘で明日の我会の宿泊人員の確認をして庚申山荘へ林道を沢沿いに歩いた。蟬や河鹿の鳴声が高崎線の谷間に木魂する。2kmの地点に駐車場と遮断器があり車の進入を阻んでいる。舗装も此所迄で奥は土道だ。途中野猿が飛出したりして深山の趣がうかがえ台高や大峯の谷を思い出す。一の鳥居で林道の終点で此所から沢沿いの山道が庚申山へついている。美しい谷水は飲んでも甘い。一の鳥居から1時間余りで庚申山荘へ。無人で新築の2階建の寝具のみ一泊1,500円。銀山平の管理事務所へ支払う。夕食を作って寝たが途中でも2頭見た鹿が沢山鳴いていた。

6/5 4時起床で餅入ラーメンを作って4:25出発。庚申山へ岩場の多い急斜を登る。此の辺りに庚申草と云う食虫植物が生えているが、日本で此所だけの珍種で、岩壁の各所に神仏の安置を見る。此の山も修験業の聖地として知られ、皇海山はその奥の院として信者の登拝が江戸時代に盛んであったそうだ。庚申山1,901mは西に展望が開け袈裟丸山や皇海山が北に男体山、白根山が見えた。山頂一帯にアズマジャクナゲが美しく我等一行(朝姫路の寺田氏も加わった。)を歓迎するかのようであった。小憩後出発、鋸岳迄の11の岩峰の縦走に出る。

途中のコル迄は大したピークもなく後1/3程に小さいが深く切込んだ岩峰群があり、天々薬師白山剣・熊野等の名があり鎖で登り下りする悪場が多く両側は急峻な落込で断崖でツガや石楠花・五葉ツツジが生えており要心して登降を繰返し鋸山へ8時頃着いた。展望は360°に展げ北に皇海山がそり立つ。南に袈裟丸連峰が、北に白根山や男体山が 大きく残雪の谷が白く光る。一休して不用品をデポして急斜を要心して下り、小山を二つ越え皇海山へ取付く。思ったより道は良く上ると倒木や笹が多く針葉樹林となり急坂を登ると平らな山頂の二等三角点2,144mに達した。一同万才三称、写真撮影後展望(林があり余りよくない)を楽しんで下山。コルから落石注意で急崖を登って鋸山へ12時着。昼食休憩後云林班峠經由下山する。峠迄はゆるい登降があり約1時間。途中三等三角点1,836mを越す。峠で小憩後良い道を庚申山へ下り、途中二度目の出合下の水場でコーヒーを沸し休憩。谷水も冷くて甘い。山荘迄5kmとあったが、谷の中腹をレベルに巻いて小さな登降もありとても5km位でなく7km以上あると思はれる長い道で、16:00頃山荘に到着し小憩後私一人会務の為先発、飛ばしてかじか荘17:30頃到着。

先着の末国・玉岡一行と会いワル2人と人員確認して部屋割を決め、秋村氏にゲート迄後発の迎へを頼み、温泉に入り汗を流して着換え一同揃って夕食へ。玉岡氏一行の差入れの原価大平洋や佐藤武雄氏の寄附五千元を被露して一同乾杯。

6/6 朝食後、玉岡・秋村の二台とタクシーの三台に分乗して出発、沢入へ渡良瀬川沿いに下り、沢入バラ谷林道を走り、バラ谷峠の登山口へ。支尾根の登路は始めは急峻だったが間もなく緩やかな良い道が林間を通りやがて展望のきく伐採後の尾根を通過して谷へ下ると下流は濁谷で、樋から湧水が流れ落ちる良い水場があり、冷い水は名水に値する。一同小憩して出発。双輪塔・寝釈迦からの塔の沢林道からの登路と合し、養の河原を経て小丸山へ向った。先頭を山上で待たせて末国さん一行を迎へて昼食休憩、樹林の木影で楽しい一時を過ぎて出発。小ピークを越え、笹原を通過して頂下の急崖を手足を使って急登して山頂の一角に出て笹原を辿ると一等三角点の小広い地に立ち一同万才三称して玉岡さんのたてた熱いコーヒーに喝を医す。

何時も乍らにくい玉岡氏の演出である。タクシーの迎へ時間が気になり少時休んで往路下山。秋村氏に末国さんを托して玉岡グループと一谷一行は飛ばして水呑場で小憩して16:30に登山口へ下山して沢入駅へ17:30頃到着。18:19発の足尾線に乗り、桐生・高崎経由東京へ、上野で一泊して翌夜夜行で帰京した。

## 野坂岳登頂報告

津田 実

昨年の秋、大槻貞従さんから野坂山地礼讃の洗礼を受けて、よし俺もと心に期し、三橋さんに百里岳え連れて戴いた。それは先に部報に述べたとおりである。

今回は、それ以後気になっていた野坂岳え、暑いサカイ、涼しい沢登りをと洩る三橋さんを半ば強引に頼み込み、ついでに用事があると云うカッチャンも説伏せての野坂行きとなる。

しからは、野坂とは何なのか？ 何が、小生をそれ程に駆り立てたのか？

それは、<sup>アラチ</sup>日本山名辞典404ページに部員諸卿は刮目されよ、

野坂山地（<sup>アラチ</sup>愛発山地・湖北山地）福井県と滋賀県との境。琵琶湖の北。野坂岳を主峰とする。地溝部分は、古来京都から日本海側に出る重要な交通路で西近江路・北陸街道が通り、<sup>アラチ</sup>愛発関が設けられた。

野坂岳 福井県敦賀市と三方郡美浜町との境。北陸本線新疋田駅の西7Km。

〔高〕914m。野坂山地の最高峰で、岩籠山。<sup>イワゴモリ</sup>西方ヶ岳とともに敦賀三山と呼ばれている。山頂に弘法大師ゆかりの野坂権現の祠がある。と書かれている。おまけに一等ときては、此んなエエ山行かへんヤツは阿呆や、夜も明けやらぬうちから起きて、オバハンに弁当としらえて貰い、三橋さん宅へスットンで行く。うまく行ったら、木地師のことやら、一石一字の塔のことなぞ一言隻句で



でもつかめるかも知れない？ 敦賀病院前で道を尋ねJR栗野駅横のガードを抜け、左折すると道は自然に野坂山いこいの森に導いて呉れる。三つある駐車場の一番奥に車を止める。福井ナンバーの車が4台行儀よく並んでいた。服装をととのえて出発する。天候は薄曇り、暑さが少しでも柔いで助かる。

テレビ中継所への道を左に送り好く整備された緩やかな登りを、これ又、緩やかに歩き出す。三橋さんは以前来たときより登山道が好くなっているのでカンが狂い、こんなハズではなかったとボヤクこと頻り。途中で工事中通行止、左の道への標識があったが日曜日は作業を休んでいるときが多いので、その儘進む。工合好く土木機械は止っていた。谷川を右岸から左岸に渡るところ余りにもその流れの清冽さに思わず腰をおろす。緑の木々、清冽な流れ、上を見ると白雲が悠々に動いている。

聞えるは松瀬と細流の音のみ、時折り聞える鶯の鳴声、静寂。禅の云り、行雲流水とはこのことか？ 突然、上手から山靴の音と共に4・5人の登山者が降りて来られた。

6時半に登って今おりて来たとのこと、日曜日はいつも早朝登山をしているとのこと。その人達に黙想を破られ、勇んで歩き出す。それから少しで椽の木地蔵に着く。

地図を見るとこれからは尾根筋になるから水を補給する。その沢添いに小径があった。これが旧道かも知れない。一瞬入ったろかと思って三橋さんの顔を見る。三橋さんも同じことを考えてか顔を見合せたが、ヤブがきついらしいので尾根筋の道に行く。

お得意の四輪駆動を出す迄もなく、少し登ると左手から下で見送ったテレビ中継所からの径が来る。それからは単調な尾根径を上ったり、下ったりして歩いて行くと突然、樹林に蔽はれていた空が開けて案内書にあった、御岳権現の社の前に出て、少し行くと山頂であった。

其処は360度の大展望が開け、前方に白山連峰や越美国境の峰々、後方に黒河国有林の後ろに琵琶湖が眺められる、と案内書にあったが、ガスでそんモン何も見えへん。僅かに若狭湾が見えるのみ。此の辺は梅雨時にはガスが出るらしい。

展望が悪い代りか、今迄の酷熱が嘘のような涼風が吹きわたり、汗で濡れたTシャツが一変に乾き、一等三角点の写真をとっていると寒く成って来たので下のお社に退避する仕末となる。

三角点迄来て、御神酒を買いのを忘れたことを思い出す仕末。此の結構な山に登るに際し御神酒を持参せぬとは、小生も驚愕したものだ。然し、天は我を見捨てず、岳友がザックの中から缶ビールを出して呉れた。このとき程、友は有難いものだと思ったことがない。ウソー 友より酒が有難いのヤロー、部員諸侯よ、誹らば、そしれ。

三橋さんに、缶ビールとギョウザをよばれ芝生の上で一睡り。下りは、一瀉千里。登りに一本立てた。行者ノ袖地藏も、尾根筋も砂塵を巻いて駆けおり、アッと云う間にテレビ中継所迄来て仕舞った。余りはよおりたんで付近の景色を見る余裕なし、此処迄来た後は知れたものと一本立てる。

前方に若狭湾が見え、下の村落の間をジゼル機関車が客車を引いて走っている。その向うは国道か、自動車マッチ箱のようだ。帰りの車窓から見た野坂岳、一本立てたテレビ中継所付近、さらば野坂岳よ、いつ迄も美しくあってお呉れ。

一期一会の心得を忘れずに山へ登る決意だ。

野坂よ、百里よ、若州の山々よ、何時迄もその美しさをたもってお呉れ。

〔同行者〕 三橋、 原田

## 目 録

伊 藤 潤 治

### か 行

貝ヶ平山とすずらんを探ねて、 117。  
甲斐駒ヶ岳、 339。  
貝月山、 378。  
加越国境、判官堂尾根スキー、 404。  
薫峰、 68・170。  
川上岳、 314。  
川浦谷、 93・131。  
川浦谷、内啣谷・平家岳、 94。  
加賀白山、 404。  
    〃スキー登山、392。  
夏期登山大会、67・70・第13回118。  
岳連・山岳遭難者救助訓練、293。  
鹿児島山の山旅。鹿倉山、弁財天、八重山、  
    烏帽子岳、牟礼ノ岡、 389。  
笠形山(播磨富士)、156・185・241。  
笠形山と暁晴山、 350。  
笠越え、 53。  
笠ヶ岳(2898m)、 396。  
笠峠からタカノス△654m、 361。  
柏原山・諭鶴羽山と黄揚の高、 270。  
鹿島槍ヶ岳(冬山合宿)、 271。  
    〃と五龍岳(女性パーティ例會)、  
    120。

片栗の咲く山、 127。  
葛城山△969.2m、 81・397。  
片波山、153・237・343。  
金草岳、 285。  
金糞岳、 102。  
    〃スキーツアー、 402。  
金沢に厚滝をたずねて、 252。  
鉄鉾山(かなとこ)、 395。  
神山と十三石山、 266。  
蕪山、 399。  
鎌尾根から鎌ヶ岳、 112。  
カマクラ、119・323・325・397。  
    〃今西博士500山登頂に参加して、  
    192。  
鎌ヶ岳、 2。  
上谷(かみたけ)山、 319。  
雷倉、 100・410。  
    〃東南尾根の山、 117。  
亀岡西郊外ハイク。犬石△692m・といし山△  
    536m、 300。  
カヤンダン△766m・大段△795m・シライシ  
    △778m、 345。  
烏岳と鬼ヶ城、 329。  
唐子山と行市山、 235。

濁沢合宿、 227・408。  
濁沢岳暮営、 389。  
唐櫃越え、 333。  
唐松岳祖母谷温泉(夏期登山大会白馬岳より)、  
46。  
神鍋山スキー、 29。  
甲川から大山へ、 180。  
観音寺城・安土城址を探る、 357。  
神又△1050.2m。 350。  
冠山、 102・140・259・348。  
寒風について大和三山に行く、 401。  
寒陽気(かんやき)山と新巢山、 280。  
山声雪語その他、  
会員募集、 154。  
海外登山、 98。  
"に思う、 249。  
ガイドブック、 395。  
開発か防災か自然保護か、 384。  
嘉永元年(1848年)の絵図、 350。  
帰ってきた小鳥たち、 267。  
岳人と親睦、 56。  
岳人のなげき、 198。  
ガストンレピヴァー講演と映画の会、 55。  
カゼ、 389。  
合宿と大会、 251。  
克ちゃんの死、 308。  
形見の山歌、 68。  
方山さんの事故報告、 350。  
滑落、 342。  
金のないやつめ、 163。  
金久昌業氏を偲ぶ。 354。  
神々のたたかい、(山と伝説)、 226。  
雷、クワバラ・クワバラ、 372。  
"こわい、 274。  
"三日、 334。

刈安峠、 130。  
カラススキー、(霧語伍)、 206。  
から梅雨、 358。  
環境美化保全条例スタート、 364。  
関西とその周辺の山、出版に際して、 311。  
"版、西黒尾根、 95。  
寒中閉話、 89。  
缶詰弁当、 225。  
観天望気について、(11月の山の気象講座より  
)、 206。  
巻頭言に苦勞するの記、 367。  
勘の悪さ、 118。  
ガンバレ吉田監督、 359。  
キノ部  
キン山と高竜寺山、 356。  
木曾御嶽山、 120・135。  
木曾御岳山への道、 193・196。  
"路をさすらう、 341。  
"駒、 104・122・295。  
"厚生会登山、 299。  
"の峠路に行く、 159。  
北鎌尾根(第800回例会記念)、 217。  
"縦走、 410。  
"夏山合宿、 384。  
北関東の山旅、 387。  
北比良死の行軍、 358。  
北俣川から池木屋山、 123。  
北八ヶ岳を歩く、 105。  
"より霧ヶ峰、 133。  
"と蓼科山(局内大会)、 288。  
"散策、 326。  
木ノ芽峠と鉢伏山、 337。  
貴船・大文字・ボンボン・釈迦、 301。  
北山・滝又ノ滝より茶呑峠、 119。  
"便り、 259。

北山データ、 92。  
北山のシャクナゲ見物、 261。  
 〃の峠、 291・356。  
 〃ハイキング、 62。  
 〃漫歩、 57。  
 〃山小屋廻り、 87・170。  
 〃レポート、 121。  
鬼面山 I Δ 1890m、 212。  
九州熊本と宮崎の山旅、 381。  
 〃山陽・山陰の山旅、(久住山・万年山・  
阿佐山・大江高山)、 284。  
行市山と唐子山、 237。  
強化例会への誘い、 99。  
行者山から朝日山へ、 148。  
強風の氷ノ山、 259。  
経ヶ岳、 349・376。  
 〃とイチゴ谷山、 406。  
経塚山、 225。  
局内スキー、 40・76・89・125・  
京大演習林、 73。  
 〃と三国岳、 200。  
京都歩こう会、 389。  
 〃北山・三国岳、 190。  
 〃山岳連盟30周年記念・登山祭、 314。  
 〃西部より見た山、 50。  
 〃西北部の山歩き、 283。  
 〃府県境の山シリーズについて、 391。  
 〃府下30山例会候補山名(案)、305。  
 〃30山、 321。  
 〃の山々、権現山・久次岳、 308。  
霧の小塩山陵、 213。  
金峰山、 227。  
木馬は生きている。 357。  
銀閣寺・池ノ地藏など。 343。  
銀嶺の武奈ヶ岳、 390。

山声雪語・毒語缶その他  
岸田日出男氏の訴えを聞く、吉野・熊野国立公  
園の現状と自然保護について、 61。  
岸田日出男氏顕彰碑除幕式に参加して、 110。  
北岳の夕映え、 181。  
北山杉健在、 319。  
京交山岳部15年史、 141。  
 〃35周年記念・北の山利尻岳、 383。  
 〃踏査競技会(正解)、 400。  
 〃名誉部員表彰要綱、 160・201。  
 〃創立20周年を祝い、 201。  
 〃遭難対策要綱、 201。  
 〃行動要綱、 201。  
 〃マイカー登山行動要綱について、  
 300。  
京都気象100年、 348。  
 〃健康ウォークのつどい、 328。  
京交の花、 121。  
京の大文字、 190。  
京の里・西山(杉本苑子)、 183。  
局内スキー大会を回顧して、 52・64。  
 〃第8回開催要綱、 63。  
紀行(大島亮吉)、 209。  
気象年鑑1968年版、 190。  
気になる山、 307。  
記念行事、 84。  
木の芽だち、 343。  
競技か競争か、 317。  
去年の秋、 374。  
救急法、 247~250。  
 〃の実際・対策訓練、 166。  
休講稿のおわび、 226。  
くノ部  
九月の決算、 48。  
クサビラ平(呉枯峰)、 337。

九重山塊、 188。

“系第21回全日本登山体育大会に参加して、  
346。

久須夜ヶ岳、 167。

久多・小黒谷・八丁平・尾越、 75。

久多峠・寺谷峠・尾越・大見・百井、 85。

久田村誌(雪の三国岳)、 207。

口ノ深谷、 36・69・384・405。

“より武奈ヶ岳、 80。

“撤退と白滝谷廻行記、 383。

苦難の山・朝日連峰、 361。

国見岳と富士写ヶ岳、 181。

首無地藏・カケバ峠ーウジウジ峠、 81。

熊伏山、 260。

雲ヶ畑から魚谷山・滝谷峠・貴船、 62。

雲取山△911m、 136・238・365。

“キャンピングと北山清掃、 217。

“登山失敗の記、 259。

“ファンタスティックな雪の北山を歩く、  
354。

黒河川のブナ林偵察記、 411。

具留尊山、 125、127。

黒頭峰、 335・411。

黒津山(坂内の山に行く、2)、 374。

来日岳I△566.7m、 340。

黒法師岳、 270。

黒四ダムから日電ダム歩道を歩く、169。

桑谷山、 253・302・399。

山声雪語・毒語缶その他。

くさい話、二題、 120。

苦吐記、 128・129。

クリーン作戦、 275。

黒部、(冠松次郎)、 215。

“を下って、 217。

黒百合の呪い、 223。

## けノ部

鶏冠山△491m、 196。

鶏足山△586m、 341。

京阪神三交通局親睦スキー大会、 29。

“名四交通局親睦スキー大会開催要綱及び

選手選考、 63。ならびにスキー大会、

41・53・65。

銀杏峰・部子山、 332。

幻想的な北山遺囑記、 378。

剣尾山と深山、 402。

山声雪語その他

計画は綿密に、 124。

激増するヒマラヤ遭難、 349。

元始、(年頭所感あり)、 304。

## こノ部

光兎山、 274。

河内の風穴洞、 84。

鴻応山△678.2m、 245・313・316。

高賀山、 153・394。

“とエンクさま、 154。

庚申山と皇海(スカイ)、 334。

“飯道山ならびに納山祭、 340。

個人山行報告、 395。

古代太陽の道、尼ヶ岳・大洞山、 394。

己高山、 302。

小谷山△495m、 231・337。

湖東の山、 368。

今年の山行を思ひ(例会報告にかえて)、 399。

湖南アルプス、 371。

“太神(田上)山、 77。

“雪上訓練、 193。

神野山から高峰山へ、 156。

コブ尾根よりジャンダルム、 369。

コプロの山名について、 402。

湖北シリーズを終って、 231。

湖北乗鞍岳、 297。  
 古光山、 224。  
 木守部落周辺の山々、 184。  
 高野・竜神スカイラインから十津川、 309。  
   〃陣ヶ峰(晩秋の生石高原から)、 351。  
 小雪の愛宕山、 328。  
 紅葉の大山、 74。  
   〃と新雪の秋山大会、 170。  
   〃の北山、石楠尾根、天ヶ岳など、 375。  
 高竜寺岳△696.7m、 322・393。  
 小和田山(タボラ)△658.6m、 315。  
   〃大平山、 204。  
   〃鴻応山、 403。  
 五月の山々、(お花畑無惨・愛宕周辺)405。  
 五の参り(水井・焼杉など) 381。  
 御在所山、 2・33。  
   〃前尾根、 214。  
   〃藤内壁、 258・385。  
   〃から雨乞岳、 236・273。  
 五蛇池山、山村敏郎氏還暦記念登山、296。  
   〃偵察行記・還暦登山の謝辞、296。  
 豪雪の雲取山 二ノ谷小屋跡まで、 257。  
 豪雪の比良スキーツアー、 379。  
 御前岳と栗ヶ岳、 182。  
 護摩壇山、 218。  
   〃竜神行脚記、 18。  
 護摩堂山△1152.4m紀行、 392。  
   〃白山をながめる山、 345。  
 五里五里の里を歩く、 390。  
 五竜、鹿島槍縦走、 82。  
 恋谷△751.8mと大黒山(敦賀)、405。  
 国体予選参加報告、21。  
   〃登山部門、山岳競技の変せん、 22。  
   〃京都府予選報告、 60・108。  
     〃岡田君入賞、 118。

国体コース調査 オコ谷から桑谷山、386。  
 コクマタ南西稜、 189。  
   〃の踏査、 82。  
 琴滝と美女山、 168。  
 この自然未来のために、いま守ろう。  
   1. 自然公園。 2. 火打山 3. 妙高山  
   335。  
 駒ヶ岳、 243・246・410。  
 米かい道・明智越え、 263・349。  
 金勝アルプス 岩と磨崖仏の道、 339。  
   〃北峰縦走、347。  
 金胎寺・笠置山、 380。  
 金剛童子山・太鼓山、 360。  
 近藤・森下両名誉部員古稀祝福登山、346。  
 金比羅山、14・84・94・193・324  
   ・328・339・347・385。  
   〃ザイル祭と撮影会、 37。  
   〃岳遭難救助訓練に参加して、336。  
   〃岩のほりの反省、 343。  
 権現山と霊仙山、 224。  
 ゴーロ(東山・笹ヶ峰)、 210。  
   山声雪語その他。  
 行動要綱制定について、 126。  
 コースの選定、 153。  
 故多人氏の思い出、 174。  
 国際森林年によせて、 393。  
 湖西麓発車、 262。  
 小谷隆一氏を囲みて、 46。  
 コッテ牛のたわごと、 387。  
 今年の正月、 388。  
 従是禁制女人、 117。  
 虎列刺(コレラ)、 297。  
 これは驚き皆子山頂、 218。  
 転ばぬ先の杖、 164。  
 心の用心、 192。

コンクリート制三角点標識のはなし、 316。 豪雪明暗、 257。  
 近藤部長と山岳部17年、166~171。 五階からの東山、 346。  
 ＊欲送山行の記、 167。 御勢久右衛門氏のこと、 84。  
 ＊ごあいさつとお礼、 166。 五百山登頂とお礼、 286。  
 こんにちわ、 90。 五分前精神、 144。  
 コンパニオン・シップ、 194。 ゴミ箱がやってきた。 398。  
 ごあいさつ、 240。

1987.4.23

## 例 会 報 告

例会No	目的地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1643	ボンジン 京丸・灰縄	5月 9日		伊藤 潤治		(別稿詳報)
1646	東千回沢 オジロギ 乞食松	5月29日 ~30日		伊藤 潤治		(別稿詳報)
1649	田畑山と (中止) 桐ヶ岳			伊藤 潤治		
1650	天狗城と (中止) 明神クラッ			伊藤 潤治		
1651	今淵ヶ岳	6月21日 (変更)		大槻 雅弘	三橋、古市	(別稿詳報)
1652	(変更) 千丈寺山	6月21日		岡田 茂久	井戸、(井戸) 方山、 渡辺明子	(別稿詳報)
1653	和田寺山	7月 5日		和田 良一	伊藤、三橋 古市、方山 渡辺明子	古市駅でビールを購入したまで はよかったが…。 (次号報告)

### ▲部費受領

三浦 貞義、渡辺 智生、長谷川雅也、宮川 勇、山田 富男、足立 公弘、田中 明、  
 木下 嘉造、前田 文男、 (14ページに続く)

## 部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
大峰山脈 吉野から 山上ヶ岳他	5月31日 〃 6月 1日		森本、清一 久保 忠三 (工藤俊作)	(別稿詳報)
庚申山から 皇海山 袈裟丸山	6月 4日 〃 6月 7日		坂井 久光	(別稿詳報)
野坂岳	6月28日		津田 実 三橋 勉 原田加津子	(別稿詳報)

## 雑 報

### ▲7月の集会

9日 場所 厚生会館 4F

出席者 本局 大槻雅、古市、三橋、方山、井上

高速 岡田、大倉、 梅津 吉田

OB 津田、渡辺、伊藤

以上 12名

インドア「読図(2)」 吉田 武

例会報告、個人山行、例会予定、その他

### ▲他山岳会の会報(受贈分)

5月号 わっぱ

6月号 比良山岳、青嶺、わっぱ

7月号 京都山岳、近畿山行、木籬、趣味の登山、山岳巡礼、山友、比良山岳、北山、  
一等三角点

その他 新宮山彦ぐるーぶ

### ▲退 部

本局 樋口由希子



帆 布 ・ 瀟 布  
テント ・ シート  
雨 合 羽

### 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801 5331(代)  
西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

### 愛されるスポーツ店 京菱運動具店

本店 下京区大宮通松原上ル  
TEL (801) 1331  
十条店 南区竹田街道十条上ル東側  
TEL (691) 8041  
伏見店 伏見区白耆町西友ストアー4F  
TEL (623) 0824  
山科店 山科区音羽野田町1番  
西友ストアー山科店  
TEL (592)9770 内線 228

営業時間 一年中、山用品だけの  
プロショップ

午前10～午後1時と午後3時～午後8時  
(午後1時～3時は閉店させていただきます)

<定休日> 火・水曜日

山・アウトドア プロショップ  
ログケビン

京都市中京区御幸町通  
蛸薬師南入  
(四条河原町・阪急河  
原町より徒歩4分)



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店

あらゆる地図のご用命は

株式会社  
小林地図専門店

600 京都市下京区烏丸通六条下ル  
TEL 075(351)6598(代)

地下鉄：烏丸五条 6番出口南50m  
市バス：烏丸六条下車

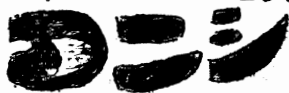


この用事ならコニシが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ  
そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202

昭和62年8月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部



お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い一時立退きと相成りました  
改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします



移転先 本店2階

京都市中京区西ノ京町24

ダイヤ運動用品株式会社



Horike まかせて下さい...ネ



山とスキー

☆在庫豊富にとり揃えています。  
☆山の道具は ぜひ 御相談下さい

山とスキー専門店  
ビッククホリック

河原町店 上・河原町通丸太町東入

TEL 222-0363

御婚礼  
御引越



菊水 専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター

京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075)581-3101

本社

東山区大和大路四条下ル 541-2345

夷川営業所

中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075)771-3442

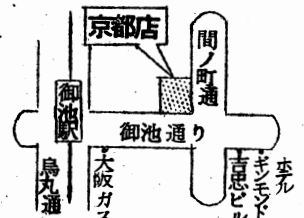
場所も変わって、アウトドア&スキー専門店  
広くオシャレに。

ロッジ・京都店4月18日(土)移転オープン

京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地

TEL 075 255-0595

京都市地下鉄「御池」駅  
より徒歩 約5分



- |           |                       |               |                  |
|-----------|-----------------------|---------------|------------------|
| 梅田日生ビル店   | 大阪市北区堂山町3番            | 3号            | TEL 06(315)7757  |
| 大阪駅前第4ビル店 | 1F スキー店               | 大阪市北区梅田1丁目5番地 | TEL 06(341)5444  |
|           | 2F 登山店                | 大阪市北区梅田1丁目5番地 | TEL 06(341)5578  |
| みなみ店      | 大阪市西区北堀江1丁目3番7号       | 勤施ビル1F        | TEL 06(532)7801  |
| 京都店       | 京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地 |               | TEL 075(255)0595 |
| 高岡 ヨーデル   | 富山県高岡市戸出3丁目           | 2036          | TEL 0766(63)6360 |